増田一夫先生
業　績　一　覧
（2019 年 12 月現在）

分担執筆

1. 『デリダと死刑を考える』，高桑和巳編，白水社，2018 年 11 月，238 頁，xxx 頁.「定言命法の裏帳簿――カントの死刑論を読むデリダ」（127–167 頁）を執筆.
2. 『共にあることの哲学と現実』，岩野卓司編，書肆心水，2017 年 11 月．320 頁.「喪のポリティクス――デリダ，「私は死で動いている」の射程」（277–317 頁）を執筆.
3. 『分断された時代を生きる（知のフィールドガイド）』，東京大学教養学部編，白水社，2017 年 8 月，270 頁.「移民，人権，国境を考える――ヨーロッパからの視点」（257–267 頁）を執筆.
4. 『共にあることの哲学』岩野卓司編，書肆心水，284 頁，2016 年 4 月.「忌避される共同体――デリダと主権の脱構築」（173–207 頁）を執筆.
5. 『生き延びること――生命の教養学 V』，高桑和巳編，慶應義塾大学出版会，2009 年 12 月，253 頁.「「生き延びること」の政治経済学――グローバリゼーションと 2 つのサヴァイヴァル」（147–174 頁）を執筆.
6. *La modernité française dans l'Asie littéraire. Chine, Corée, Japon*, Haruhisa Kato（ed.）, Paris, P.U.F., 2009. 403p. « L'avenir d'une traduction. Orikuchi Shinobu et la quête d'une langue nationale »（pp. 391–403）を執筆.
7. 『世俗化とライシテ』，羽田正編，UTCP，UTCP Booklet 6，2009 年 2 月，122 頁.「ライシテと国民統合「21 世紀世界ライシテ宣言」をめぐる若干の考察」（69–81 頁）を執筆.
8. *Sécularisations et laïcité*, Masashi Haneda（ed.）, UTCP. UTCP Booklet 7, 2009.02, 109p. « Laïcité et intégration. Quelques réflexions à partir de la « Déclaration universelle sur la laïcité au XXIe siècle » »,（pp. 59–69）を執筆.
9. 『心と身体の世界化　心の危機と臨床の知　7』，港道隆編，人文書院，2006 年 3 月，221 頁.「「主人」と「奴隷」の解放――グローバリゼーションの弁証法」（151–169 頁）を執筆.
10. 『カール・シュミットと現代』臼井隆一郎編，沖積舎，2005 年 6 月，438 頁.「シュミットとアーレントのあいだ――もしくは敵なき例外状況」（253–291 頁）を執筆.
11. *La démocratie à venir. Autour de Jacques Derrida*, Marie-Louise Mallet et Ginette Michaud（ed.）, Paris, Galilée, 2004, 621p. « Hannah Arendt et l'enfer de la politique »（pp. 91–104）を執筆.
12. 『フランスとその〈外部〉』石井洋二郎，工藤庸子編，東京大学出版会，2004 年 7 月，287 頁.「暴力のエコノミー――新しいアメリカの世紀とその地平」（171–190 頁）を執筆.
13. 『岩波講座　文学　別巻　文学理論』小森陽一，富山太佳夫，沼野充義，兵藤裕己，松浦寿輝編，岩波書店，2004 年 5 月，340 頁＋73 頁.「余 - 生のエクリチュール――デリダと証言

のアポリア」(95–118 頁) を執筆.

14. 『来るべき〈民主主義〉——反グローバリズムの政治哲学』，三浦信孝編，藤原書店，2003 年 12 月，381 頁.「正義のポリティックス——帝国・全体主義・脱構築」(62–87 頁) を執筆.
15. 『クレオールのかたち』遠藤泰生・木村秀雄編，東京大学出版会，2002 年 5 月，316 頁.「第 7 章 普遍性への途上——クレオールとフランス共和国」(211–241 頁) を執筆.
16. 『人権は「普遍」なのか——世界人権宣言の 50 年とこれから』小林善彦・樋口陽一編，岩波書店，1999 年 5 月，「プロセスとしての人権」(15–21 頁) を執筆.
17. 『歴史の文法』，義江彰夫・山内昌之・本村凌二編，東京大学出版会，1997 年 4 月，291 頁.「現代史と〈永遠の哲学〉——ハンナ・アーレントの道具箱」(257–269 頁) を執筆.
18. 『帝国とはなにか』山内昌之・増田一夫・村田雄二郎編，岩波書店，1997 年 2 月，269 頁.「帝国の地平」1–6 頁，および「共和国の二重の身体——フランス普遍主義と帝国の子供たち」(83–110 頁) を執筆.
19. 『知の論理』，小林康夫・船曳建夫編，東京大学出版会，1995 年 4 月，322 頁.「〈現在〉のナルシシズムに抗して——フーコーと不連続の歴史」(227–237 頁) を執筆.
20. 『いま，なぜ民族か』，蓮実重彦・山内昌之編，東京大学出版会，1994 年 4 月，233 頁.「移民という〈新しい民族問題〉」(188–203 頁) を執筆.
21. *Le Passage des frontières*, Paris, Galilée, 1994.02, 538p. « L'Etrangeté de la « langue à venir » chez Orikuchi Shinobu » (pp. 99–104) を執筆.
22. 『構造論革命』,「岩波講座　現代思想　第 5 巻」，新田義弘・子安宣邦・丸山圭三郎他編，岩波書店，1993 年 9 月，324 頁.「フーコーの狂気　デリダの狂気」(225–264 頁) を執筆.
23. 『浮遊する意味』「現代哲学の冒険」第 14 巻，市川浩・加藤尚武・坂部恵他編，岩波書店，1990 年 6 月，370 頁.「意味のおごり　意味の危機」(307–360 頁) を執筆.

レフリー付き学術論文

1. « Le Symbole intériorisé — Sur l'idiome phénoménologique de Merleau-Ponty », *Etudes de langue et littérature françaises* (日本フランス語フランス文学会誌) 第 52 号，1988 年 3 月，pp. 140–152.
2. *Archéologie de la parole — Etude sur Merleau-Ponty*，パリ第 1 大学哲学科博士課程 DEA 論文，1983 年 9 月，58p.
3. *Transcendance et expression — Etude sur la philosophie de Merleau-Ponty*，東京大学人文科学研究科仏語仏文学専攻，修士課程論文，1981 年 3 月，314p.

一般学術論文

1. 「逆風のなかの「移民」——フランスにおける排除と敵対の言説」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要，第 21 号，2017 年 3 月，79–103 頁.
2. 「連鎖する自己免疫——フランス 2015 年秋」,『現代思想』，青土社，vol. 43–20，2016 年 1 月

臨時増刊号，特集「パリ襲撃事件　新しい〈戦争〉の行方」，201–207 頁.

3. 「デリダ　初めに――存在論的差異と存在者的隠喩」.『現代思想』，青土社，vol. 43–2，2015 年 2 月臨時増刊号，「総特集デリダ」，101–115 頁.
4. 「戦うライシテ――『シャルリー・エブド』のフランス」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要，別冊 2，2015 年 3 月，141–152 頁.
5. 「「哲学的人間学」と生存の政治学――アーレントによるフランス革命とルソー」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要，第 18 号，2014 年 3 月，131–158 頁.
6. 「ナショナル・アイデンティティとしてのライシテ――フランス，スカーフ問題の背景」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要，第 16 号，2012 年 3 月，59–83 頁.
7. 「フランスの「新しい反ユダヤ主義」と「ショアー」の遺産」，科学研究費補助金　基盤研究 (A)「アブラハム的伝統の臨界――三大一神教の哲学，神学・政治論とその外部の地域文化研究」成果報告書，2009 年，52–75 頁.
8. 「いかにアメリカを語らないか？――「最悪の友」からの言葉」，『アメリカ太平洋研究』，東京大学大学院総合文化研究科付属アメリカ太平洋地域研究センター，第 8 号，2008 年 3 月，36–44 頁.
9. 「エルゴ・ユダエウス・スム――「最後のユダヤ人」としてのデリダ」，別冊『環』，藤原書店，第 13 号，「ジャック・デリダ　1930–2004」，藤原書店，2007 年 12 月，262–278 頁.
10. 「統合の臨界――「人種」なき共和国フランスの試練」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻紀要，第 11 号，2007 年 3 月，65–84 頁.
11. 「眼下の第三世界――フランスの banlieues　世界の banlieues」，『現代思想』，青土社，vol. 34–3，2006 年 2 月，71–79 頁.
12. 「固有名――ジャック・デリダ」，『思想』，岩波書店，969 号，2004 年 12 月，37–48 頁.
13. 「異境から――ジャック・デリダに捧ぐ」，『現代思想』，青土社，vol. 32–15，「緊急特集ジャック・デリダ」，2004 年 11 月，130–137 頁.
14. 「ヨーロッパの行方　東アジアの行方――大西洋的裂け目と東アジア」，『もう一つの目で見る東アジア』，東アジア四大学フォーラム東京会議 2003 報告集，2004 年 2 月，270–279 頁.
15. 「グローバリゼーションの戦場としてのパレスチナ」，『現代思想』，青土社，vol. 30–8，2002 年 6 月，101–109 頁.
16. 「言説の屈折光学――クレオールとフランス普遍主義」，『東京大学アメリカン・スタディーズ』，vol. 4，東京大学アメリカ研究資料センター（現・アメリカ太平洋地域研究センター），1999 年 3 月，75–90 頁.
17. 「テクノフォビアの思想――ハンナ・アーレントと政治の救済」，『現代思想』，青土社，vol. 25–8，1997 年 7 月，240–249 頁.
18. 「デカルトの悪夢――ハンナ・アーレントと現れの世界 (2)」，『明治学院大学論叢』「フラン

ス文学特輯」第 27 号，1994 年 3 月，77–102 頁.

19. 「マレビトとしての未来語――折口信夫と共同体の言語」，『現代思想』，青土社，vol. 21–11，1993 年 10 月，44–56 頁.
20. « La Dette symbolique de la *Phénoménologie de la perception* », *Recherches sur la philosophie et le langage*, no. 15, Université de Grenoble，1993.05，pp. 225–243.
21. 「デカルトの悪夢――ハンナ・アーレントと現れの世界 (1)」，『明治学院大学論叢』，「フランス文学特輯」第 25 号，1992 年 3 月，35–60 頁.
22. 「真理の黙示録あるいは核戦争の発明」，『現代思想』，青土社，vol. 17–9，1989 年 8 月，142–157 頁.
23. 「覗き窓の余白に――脱構築のコミュニケーション」，『現代思想』，青土社，vol. 16–6，臨時増刊号，1988 年 5 月，202–219 頁.
24. 「異人のパロールあるいは共同体の掟――メルロ＝ポンティ試論」，『仏語仏文学研究』，第 1 号，東京大学文学部仏語仏文学研究会，1987 年 10 月，137–162 頁.
25. 「光と住居――隠喩の脱構築について」，『理想』，理想社，第 618 号，1984 年 11 月，227–239 頁.

翻訳

1. レジーヌ・アズリア，ダニエル・エルヴュー＝レジェ編，『宗教事象事典』，増田一夫，伊達聖伸，鶴岡賀雄，杉村靖彦，長井伸仁編訳，みすず書房，2019 年 5 月，774 頁，xix 頁.「イデオロギー」(22–29 頁)，「ジェンダー」(143–156 頁)，「宗教的近代」(251–264 頁)，「植民地化」(308–323 頁) を翻訳．他 20 項目を監訳.
2. セバスティアン・タンク＝ストルペール「宗教的近代」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻紀要，別冊 2，2015 年 3 月，pp 3–14.
3. クリスティーヌ・デルフィ「反性差別主義それとも反人種主義？――偽りのジレンマ」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻紀要，別冊 2，2015 年 3 月，85–112 頁.
4. エリック・ファッサン「人種を見ないか？ もしくは人種主義を見ないか？――一つの戦略的なアプローチ」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻紀要，別冊 2，2015 年 3 月，113–140 頁.
5. クリストフ・アギトン『「もうひとつの世界」への最前線――グローバリゼーションに対して立ち上がる市民たち』，現代企画室，2009 年 5 月，250 頁．(稲葉奈々子との共訳)
6. ジャック・デリダ『マルクスの亡霊たち――負債状況＝国家，喪の作業，新しいインターナショナル』，藤原書店，2007 年 9 月，438 頁.
7. ジャック・デリダ「赦し，真理，和解――そのジャンルは何か？」，別冊『環』，藤原書店，第 13 号，「ジャック・デリダ　1930–2004」，2007 年 12 月，6–66 頁.

8. ギル・アニジャール「Beginnings――エドワード・サイードに捧ぐ」,『現代思想』, 青土社, vol. 31–14, 臨時増刊号, 2003 年 11 月, 64–77 頁.（鼎談, 増田ユリ子との共訳）
9. ジャック・デリダ『有限責任会社』, 法政大学出版局, 2002 年 12 月, 347 頁. 高橋哲哉, 宮崎裕助との共訳, 67–130 頁, 208–228 頁を翻訳.
10. ミシェル・フーコー『ミシェル・フーコー　思考集成　X』, 小林康夫・石田英敬・松浦寿輝編, 筑摩書房, 2002 年 3 月, 389 頁.「道徳の回帰」(199–214 頁),「生存の美学」(247–254 頁) を翻訳.
11. カトリーヌ・マラブー編『デリダと肯定の思考』, 未來社, 2001 年 10 月, 509 頁. 高橋哲哉, 高桑和巳と共に監訳.「監訳者あとがき」(495–502 頁) を執筆.
12. ミシェル・フーコー『ミシェル・フーコー　思考集成　IX』, 筑摩書房, 2001 年 11 月.「フーコーとの対話」(87–101 頁),「性の選択, 性の行為」(136–158 頁) を翻訳.
13. ミシェル・フーコー『ミシェル・フーコー　思考集成　VIII』, 筑摩書房, 2001 年 9 月, 編集および「かくも単純な悦び」(71–74 頁),「ミシェル・フーコーとの対話」(193–268 頁),「生の様式としての友愛について」(371–378 頁) を翻訳.「日本語版編者解説」(450–461) を執筆.
14. ミシェル・フーコー『ミシェル・フーコー思想集成　VI』, 小林康夫・石田英敬・松浦寿輝編, 筑摩書房, 2000 年 8 月, 604 頁.「ミシェル・フーコーのゲーム」(409–452 頁) を翻訳.
15. ジャック・デリダ「共謀する＝厄祓いする――マルクス主義 (を)」,『環』, vol. 1, 藤原書店, 2000 年 4 月, 253–269 頁.
16. ミシェル・フーコー『ミシェル・フーコー思想集成　IV』, 小林康夫・石田英敬・松浦寿輝編, 筑摩書房, 1999 年, 499 頁.「私の身体, この紙, この炉」(165–200 頁),「デリダへの回答」(218–239 頁) を翻訳.
17. ミシェル・フーコー『ミシェル・フーコー思想集成 II』, 小林康夫・石田英敬・松浦寿輝編, 筑摩書房, 1999 年, 493 頁.「〈今日〉の診断を可能にする構造主義哲学」(423–429 頁) を翻訳.
18. ジャック・デリダ「ヨーロッパ的責任の秘密」,『文藝』, 1993 年春季号, 1993 年 2 月, 328–338 頁.
19. ジャック・デリダ他『この男, この国――ネルソン・マンデラに捧げられた 14 のオマージュ』, ユニテ, 1989 年 8 月.「ネルソン・マンデラの感嘆. あるいは反省＝反射の法則」(12–61 頁) を翻訳.
20. ジャック・デリダ「有限責任会社　abc」,『現代思想』, 青土社, vol. 16–6, 臨時増刊号, 1988 年 5 月, 84–185 頁.（高橋哲哉との共訳）
21. ミシェル・フーコー『同性愛と生存の美学』, 哲学書房, 1987 年 5 月, 197 頁.
22. ジャック・デリダ, « Ja, ou le faux-bond »,『現代思想』, 青土社, vol. 14–8, 1986 年 8 月, 222–239 頁.

その他の業績

1. 「駒場をあとに：リベラル・アーツの日々」，教養学部報，東京大学大学院総合文化研究科・教養学部，614 号，2019 年 12 月．エッセイ．
2. 「グローバル化する中国を見つめて――村田雄二郎先生を送る」，ODYSSEUS．東京大学大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻紀要．第 22 号．2018 年 3 月，189–190 頁．エッセイ．
3. 「フランス語――力強い精神と文化の奥深さを学ぶ」，東京大学新聞，東京大学新聞社．第 2836 号，2018 年 3 月．
4. 「マクロン大統領とフランス社会の内なる外部」，『教養学部報』．第 595 号，2017 年 10 月．時評．
5. 「俳優の素顔に関するパラドクス――石井洋二郎先生を送る」，ODYSSEUS，東京大学大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻紀要，第 21 号，2017 年 3 月，135–137 頁．エッセイ．
6. 「〈本の棚〉森政稔『迷走する民主主義』」，『教養学部報』，第 585 号，2016 年 7 月．書評．
7. 「自己免疫症に陥る共和国」，『ふらんす』，白水社，2016 年 7 月号，16 頁．時評．
8. 「「日本」の複数性とその境界――黒住真先生を送る」，ODYSSEUS．東京大学大学院総合文化研究科・地域文化研究専攻紀要．第 20 号．2016 年 3 月，147–149 頁．エッセイ．
9. 「フランス社会の動向――不平等意識の顕在化」．『東京大学新聞』．第 2715 号．2015 年 4 月．時評．
10. 「フクシマと生きていくということ．ミカエル・フェリエ『フクシマ・ノート　忘れない，災禍の物語』（新評論，2013 年）について」，『ふらんす』，白水社，2014 年 3 月号，72 頁．書評．
11. ナショナル・ジオグラフィック編『ビジュアル教養大事典』，日経ナショナルジオグラフィックス社，2014 年 12 月，512 頁．「哲学」（316–343 頁）の監訳．
12. 「マルクス本を通読できた例がない――という読者に」，週刊金曜日，963 号，2013 年 10 月，40 頁．書評．
13. 「ジャン＝ピエール・デュピュイ講演会．悪意なき殺人者と憎悪なき被害者の住む楽園――ヒロシマ，チェルノブイリ，フクシマ」，『教養学部報』，第 542 号，2011 年 11 月．報告．
14. 「〈本の棚〉菅原克也著『英語と日本語のあいだ』」．『教養学部報』，第 540 号，2011 年 7 月．書評．
15. 「地球的危機に立ち向かう「仏学」．J.-P. シュヴェヌマン・樋口陽一・三浦信孝著『〈共和国〉はグローバル化を超えられるか』をめぐって」，『ふらんす』，2010 年 3 月，79 頁．書評．
16. 「「アメリカの世紀」への途上――マルカム・カウリー『ロスト・ジェネレーション』」，『思想』，岩波書店，第 1021 号，2009 年 5 月．137–141 頁．書評．
17. 「作品と自伝のあいだ――ドキュメンタリー映画『デリダ，異境から』をめぐって」，別冊『環』，藤原書店，第 13 号，「ジャック・デリダ　1930–2004」，2007 年 12 月，214–243 頁．

サファー・ファティ，鵜飼哲とのフランス語による鼎談．渡名喜庸哲訳．

18. 「奇蹟に与った無 - 無神論者」，『水声通信』，第 10 号，2006 年 8 月，91–94 頁．フランス語による発言．郷原佳以訳．
19. 「アフリカによる証明――新たな奴隷制か真のグローバル化か」，『世界』，岩波書店，745 号，2005 年 11 月，202–209 頁．エッセイ．
20. 「ヨーロッパの行方　東アジアの行方――大西洋的裂け目と東アジア」，東アジア四大学フォーラム東京会議 2003「もう一つの目で見る東アジア 報告集」，2004，270–278 頁．
21. 「J. コーン編『アーレント政治思想集成　1・2』」，『思想』，岩波書店，第 958 号，2004 年第 2 号，96–99 頁．書評．
22. 「マックを壊した男――ジョゼ・ボヴェ『あるフランス農民の反逆』」，『東京新聞』，2002 年 11 月 11 日．書評．
23. 「ジョゼ・ボベ――グローバル化する農民運動の顔」，『世界』，岩波書店，2002 年 9 月，p. 179．解説．
24. 「もう一つのグローバル化をめざして」，『京都新聞』などに掲載，2002 年 3 月．時評．
25. 『フランス語　I ’02』，日本放送出版協会，2002 年 4 月，163 頁．教科書．鈴木啓二との共著，15 課中 7 課を執筆．放送大学教科書．
26. 『フランス語　II ’02』，日本放送出版協会，2002 年 4 月，150 頁．教科書．鈴木啓二との共著，15 課中 8 課を執筆．放送大学教科書．
27. ロニー・ブローマンとの対談「人道援助と『悪の凡庸さ』」，『現代思想』，青土社，vol. 28–4，2000 年 3 月，22–41 頁．（フランス語による対談，および増田ユリ子との共訳）
28. 「不可能なものの鼓動」，『現代思想』，青土社，vol. 27–3，1999 年 3 月，pp. 34–62．討論．
29. 『フランス語　I』，日本放送出版協会，1997 年 4 月，156 頁．鈴木啓二との共著，15 課中 7 課を執筆．放送大学教科書．
30. 『フランス語　II』，日本放送出版協会，1997 年 4 月，156 頁．鈴木啓二との共著，15 課中 8 課を執筆．放送大学教科書．
31. アンドレ・アズレー「ピース・プロセス再開のために」，『現代思想』，青土社，vol. 19–5，1991 年 5 月，134–166 頁．翻訳および解説．
32. 「デリダ・出来事・以降」，『現代思想』，青土社，vol. 17–9，1989 年 8 月，青土社，158–181 頁．高橋哲哉，港道隆との鼎談．
33. 「コミュニケーションのためのプロトコル」，『現代思想』，青土社，vol. 16–6，臨時増刊号，青土社，1988 年 5 月，6–11 頁．
34. 『岩波　哲学・思想事典』，廣松渉・子安宣邦他編，岩波書店，1998 年，1929 頁．「ポスト構造主義」，「ロゴス中心主義」，「エクリチュール」の項を執筆．
35. 『事典現代のフランス（増補版）』新倉俊一・朝比奈誼他編，大修館書店，1997 年，1008 頁．「思想」項目（「増補」部分 153–156 頁）を執筆．

国際会議

1. Jean Baubérot, « La laïcité actuelle en France face à l'islam et à la globalisation du religieux »，東京大学教養学部．2016 年 10 月 24 日．講演会，組織・司会．フランス語．
2. Hervé Le Bras, « La chute des partis politiques français et l'ascension du président Macron »，東京大学教養学部，2016 年 06 月 23 日．講演会，組織・司会．通訳．フランス語．
3. 日仏会館特別講演会．Barbara Cassin, « Philosopher en langues »，日仏会館フランス事務所，日仏会館，2015 年 11 月 25 日．ディスカッサント．フランス語．
4. Marie Mc Andrew, « L'éducation peut-elle changer la société ? Bilan critique de l'expérience québécoise ». 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻．東京大学教養学部．2015 年 10 月 7 日．講演会，組織・司会・通訳．フランス語．
5. 「初めに――差異，寓話，そして前未来」．「ジャック・デリダ没後 10 年シンポジウム」，早稲田大学・小野記念講堂，2014 年 11 月 22 日．招待講演．
6. François-David Sebbah, « Trace- visage-figure : Derrida, Levinas, Lyotard »，明治大学人文科学研究所総合研究講演会，明治大学駿河台校舎，2013 年 9 月 25 日．講演会，ディスカッサント．フランス語．
7. Joslin Letourneau, « Quelle histoire pour le Québec ? »，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻，東京大学教養学部，2013 年 5 月 30 日．講演会，組織・司会．フランス語．
8. Cynthia Fleury, « Le courage. Éthique individuelle — Éthique démocratique »，日仏会館，2013 年 5 月 28 日．講演会，ディスカッサント．フランス語．
9. Jean-Pierre Le Goff, « Mai 68 et la France d'aujourd'hui. L'héritage impossible »，科研費「共生の宗教へむけて――政教分離の諸相とイスラーム的視点をめぐる地域文化研究」，東京大学教養学部，2012 年 12 月 17 日．講演会，組織・司会．フランス語．
10. Gérard Bouchard, « L'interculturalisme : Perspectives québécoises et internationales »，科研費「共生の宗教へむけて――政教分離の諸相とイスラーム的視点をめぐる地域文化研究」，東京大学教養学部，2012 年 12 月 14 日．講演会，組織・司会・通訳．フランス語．
11. « Traduire au Japon », Atelier de traduction, Centre d'études interdisciplinaires des faits religieux（CEIFR），パリ，CEIFR，2012 年 11 月 28 日．報告．フランス語．
12. Étienne Tassin, « Être citoyen du monde aujourd'hui. Pour une nouvelle conception du cosmopolitisme »，科研費「共生の宗教へむけて――政教分離の諸相とイスラーム的視点をめぐる地域文化研究」，東京大学教養学部，2012 年 9 月 21 日．講演会，組織・司会．フランス語．
13. « Un an après la catastrophe. De Hiroshima à Fukushima »，パリ第 8 大学，芸術・哲学・美学学科，2012 年 3 月 15 日．招待講演．フランス語．
14. « Les traductions du sensible. L' « étranger » chez Merleau-Ponty »，パリ第 8 大学，芸術・哲学・美学学科，2012 年 3 月 8 日．招待講演．フランス語．
15. « La philosophie et son « dehors ». Comment parler philosophie hors de l' « Occident » ? »，パリ第

8 大学，芸術・哲学・美学学科，2012 年 3 月 1 日．招待講演．フランス語．

16. « L'intellectuel en question. Point de vue sur la pensée française contemporaine »，日仏シンポジウム，« Nouvelles scènes intellectuelles françaises. Dialogues asiatiques. L'intellectuel en questions »，日仏学院・在日フランス大使館文化部，日仏会館，2011 年 11 月 10 日．招待講演，討論．フランス語．

17. Micheline Milot, « Laïcité québécoise, laïcité française : des aménagements contrastés de la diversité »，科研費「共生の宗教へむけて――政教分離の諸相とイスラーム的視点をめぐる地域文化研究」，東京大学教養学部．2011 年 10 月 4 日．講演会，組織・司会・通訳．フランス語．

18. Louis-Georges Tin, « Peut-on parler d'une 'question noire' en France ? »，科研費「デニズンシップ：非永住・非同化型広域移民の国際比較研究」，東京大学教養学部，2011 年 10 月 3 日．講演会，組織・司会・通訳．フランス語．

19. Université francophone d'Asie（UNIFA），在日フランス大使館文化部・日仏会館・日仏学院・ケベック州政府在日事務所，日仏会館，2011 年 9 月 29 日–10 月 1 日．組織，« Identité et diversité » セッションの司会．フランス語．

20. Jean-Pierre Dupuy, « Un paradis habité par des meurtriers sans méchanceté et des victimes sans haines » : Hiroshima, Tchernobyl, Fukushima »，科研費「共生の宗教へむけて――政教分離の諸相とイスラーム的視点をめぐる地域文化研究」，東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター」（UTCP），東京大学教養学部，2011 年 6 月 30 日．講演会，組織・司会・通訳．フランス語．

21. « Migrations et frontières »，日仏シンポジウム，日仏会館，科研費「デニズンシップ：非永住・非同化型広域移民の国際比較研究」，日仏会館，2011 年 4 月 16–17 日．組織・基調報告「カタストロフィー以後の『移民と国境』を遠望して」．

22. 「核をめぐる真実と正義」，「『核の太平洋』は今――被害，運動そして継承」．東京大学大学院総合文化研究科人間の安全保障プログラム．東京大学教養学部．2011 年 1 月 19 日．発表．

23. Jean Baubérot, « Lois d'interdiction de la burqa en France et en Belgique »，科研費「共生の宗教へむけて――政教分離の諸相とイスラーム的視点をめぐる地域文化研究」，2010 年 5 月 17 日．講演会，組織・司会・通訳．フランス語．

24. Pierre Rodrigo, « Le paraître et la parure. Corporéité et animalité chez M. Merleau-Ponty et G. Deleuze »，東京大学グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター」，東京大学教養学部，2010 年 4 月 13 日，講演会，司会．フランス語．

25. « Laïcité et intégration. Quelques réflexions à partir de la « Déclaration universelle »，国際シンポジウム「21 世紀国際ライシテ宣言とアジア諸地域の世俗化」，東京大学グローバル COE 共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP），科研費「デニズンシップ：非永住・非同化型広域移民の国際比較研究」，東京大学教養学部，2008 年 11 月 28 日．発表．フランス語．

26. « Vers une nouvelle philosophie du corps. Centenaire de la naissance de Merleau-Ponty ».「新たな身体の哲学の構築に向けた国際的研究――メルロ＝ポンティ生誕 100 年に際して」実行委員会立教大学，2008 年 11 月 22–23 日．司会．
27. Susan George, « Mondialisation de la faillite. Faillite de la mondialisation »，科研費「デニズンシップ：非永住・非同化型広域移民の国際比較研究」，東京大学教養学部，2008 年 7 月 1 日．講演会，組織・司会・通訳．
28. 「遠くて近いフランス――日本からの視点」，ハノイ大学日本研究会，ハノイ大学日本語学科，2006 年 11 月 6 日．講演．
29. 「グローバリゼーションと地域文化研究」，シンポジウム「地域研究：依拠理論，実践と研究方法」，ハノイ国家大学・ベトナム研究・開発科学研究所，2006 年 11 月 4 日．発表．
30. « Jean-Luc Nancy, un athée miraculé »，国際シンポジウム « Autour de l' « A-athéisme » de Jean-Luc Nancy »，UTCP，科研費「アブラハム的伝統の臨界」，東京大学教養学部，2006 年 4 月 15 日．組織，発表，司会．フランス語．
31. Catherine Malabou, « Heidegger, critique du capitalisme. Le destin de la métaphore économique »，UTCP，東京大学教養学部，2005 年 6 月．ラウンド・テーブルの司会．フランス語．
32. « Portrait d'un ami philosophe en jeune enfant »，日仏学院主催「ジャック・デリダへのオマージュ／友愛の全貌」，日仏学院，日仏学院，2005 年 4 月．発表．フランス語．
33. « Réception actuelle de la pensée française au Japon »，« Les rencontres du livres 2003 : journées des sciences humaines françaises au Japon »，日仏学院，日仏学院，2003 年 11 月．発表．フランス語．
34. Salzburg Seminar, "Migration, Race, and Ethnicity in Europe"，2003 年 6 月．討論．英語．
35. « La francophonie à l'heure de la mondialisation »，東京日仏会館 50 周年記念ラウンド・テーブル，2002 年 11 月 15 日．Ousmane Paye 氏との対談，フランス語．
36. シンポジウム「グローバル化の中のフランス政治思想」，日仏会館，2002 年，10 月 11 日–13 日．Daniel Bensaïd — Etienne Balibar 討論会 « Héritages de Marx à l'épreuve de la mondialisation »（10 月 11 日），司会．フランス語．「グローバリズム・正義・民主主義」（10 月 13 日）基調報告．
37. Daniel Bensaïd, « Politiques sacrées et politiques profanes : Schmitt, Benjamin, Arendt. Entre décision et événement »，東京大学大学院総合文化研究科，ドイツ・ヨーロッパ研究室（DESK），東京大学教養学部，2002 年 10 月 8 日．講演会，組織・司会・通訳．
38. Daniel Bensaïd, « L'Europe : une énigme politico-philosophique »，東京大学大学院総合文化研究科，ドイツ・ヨーロッパ研究室（DESK），東京大学教養学部，2002 年 10 月 15 日．講演会，組織・司会・通訳．
39. 国際シンポジウム "International Migration. Changing Perspectives, New Approaches, and a Widening Horizon"，東京大学教養学部，2002 年 9 月 26 日．コメンテーター．

40. “Hypermnesia. The Time of Literature”，シンポジウム “Beginning of the new Century: Comparative Literature in a Cross-Cultural Context”，第 7 回中国比較文学会大会，南京師範大学，2002 年 8 月 18 日．発表．英語．
41. « Les sans, au-delà des droits. Hannah Arendt et l’enfer de la politique », « La démocratie à venir（autour de Jacques Derrida）»，スリジ・ラ・サル国際文化センター（フランス），2002 年 7 月 10 日．発表．フランス語．
42. “EU-Japan Seminar on International Cultural Policy”，国際交流基金，2002 年 5 月 11 日．討論．英語．
43. Hachem Foda, « Comment parler de l’Islam aujourd’hui ? »，東京大学教養学部，2002 年 4 月 24 日．組織，司会．
44. Séminaire sur la diversité linguistique et culturelle internationale，第 2 回世界社会フォーラム（ブラジル，ポルトアレグレ市），2002 年 2 月 2 日．司会，討論．フランス語．
45. 国際シンポジウム « La modernité en Asie dans le système culturel mondial »，青山学院大学フランス文学科，国際フランス語教授連合第 9 回世界大会記念事業委員会主催，青山学院大学，2001 年 12 月 18 日–12 月 21 日，司会「20 世紀の時間――文化の世界システム」のセッション，発表：« L’avenir d’une traduction. Orikuchi Shinobu et la quête d’une langue nationale »．フランス語．
46. “Politics of Human Rights. Hannah Arendt in the Light of some French Reflections”，国際セミナー「分断化する世界とハンナ・アーレント」アーレント研究会，琉球大学，2001 年 12 月 4 日．発表．英語．
47. Philippe Lacoue-Labarthe, « L’exercice de la mort（Montaigne, Rousseau : naissance de la littérature）»，日本フランス語フランス文学会秋季大会特別講演，松山大学，1999 年 11 月 6 日．講演会，組織・司会．フランス語．
48. 国際シンポジウム « Le moderne après le post-moderne »，東京大学・パリ第 8 大学共催，東京大学，1996 年 11 月．司会．フランス語．
49. « Droits et dignité. La question de l’homme chez Hannah Arendt »，国際シンポジウム « Traditions et modernités »，東京大学・フランス国立科学研究所（CNRS）共催，東京大学，1996 年 4 月．発表．フランス語．
50. « Traductions et traditions du sensible chez Merleau-Ponty »，国際メルロ＝ポンティ・コロキウム，パリ第 4 大学，1995 年 10 月．発表．フランス語．
51. クロード・ランズマン講演会「クロード・ランズマン氏に聞く」，東京大学主催，東京大学教養学部，1995 年 5 月．組織，司会，通訳．フランス語．
52. クロード・ランズマン講演会「『ショアー』について」，中央大学，中央大学，1995 年 5 月，司会，通訳．フランス語．
53. « L’Étrangeté de la « langue à venir » chez Orikuchi Shinobu »，« Le passage des frontières »，ジャッ

ク・デリダ国際コロキウム，スリジ・ラ・サル，1992 年 7 月．発表．フランス語．

国内会議

1. 「主権・国民・人権――移民は『問題』なのか？」，2018 年度地域文化研究専攻シンポジウム，東京大学教養学部，2018 年 6 月 30 日．発表．
2. 「死の脱構築――有限性の終焉としての死刑」，シンポジウム「デリダと死刑を考える」．慶應義塾大学学事振興資金事業，慶應義塾大学，2017 年 10 月 7 日．招待講演．
3. 「バルバラ・カッサン編『ヨーロッパ哲学語彙，翻訳しがたいものの辞典』について」，現代フランス研究グループ（GEFCO），日仏会館，2015 年 5 月 16 日．発表（澤田直，三浦信孝との共同発表）．
4. 「生き延びることの政治学――ルソーを読むアーレント」，中央大学人文科学研究所公開講演会，中央大学人文科学研究所，中央大学，2013 年 10 月 15 日．招待講演．
5. 公開上映会・討論会．『スカーフ論争――隠れたレイシズム』（ジェローム・オスト監督，仏・2004 年）．科研費「デニズンシップ：非永住・非同化型広域移民の国際比較研究」，科研費「共生の宗教へむけて――政教分離の諸相とイスラーム的視点をめぐる地域文化研究」，東京大学教養学部，2011 年 12 月 6 日．組織・提題者．
6. 「永続的なポグロム？――フランス，「新しい反ユダヤ主義」異聞」，明治学院大学国際平和研究所ワークショップ，明治学院大学，2007 年 12 月 19 日．招待講演．
7. 「「人種」なき共和国――試練に立つフランス的統合」，シンポジウム「人種と人種主義を問う」，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻，東京大学教養学部，2006 年 11 月 25 日．発表．
8. 「グローバリゼーションの生 - 政治学――例外状況の諸相」，甲南大学人間科学研究所，「アメリカのあり方とグローバリゼーション」プロジェクト，甲南大学，2004 年 11 月．招待講演．
9. 「政治のエコノミー――デリダからの提案」，GEFCO（現代フランス研究会），日仏会館，2002 年 11 月 28 日．発表．
10. 「民主主義の危機？ Marcel Gauchet, *La démocratie contre elle-même*（Gallimard, 2002）をめぐって」，GEFCO（現代フランス研究会），日仏会館，2002 年 7 月 28 日．発表．
11. 「いかにして科学技術を語らないか？ アニマル・ラボランスの時代におけるハンナ・アーレント」，ハンナ・アーレント研究会，科研費「アーレント思想」，東京大学教養学部，1999 年 12 月．
12. « Des droits à la politique »，世界人権宣言 50 周年記念国際シンポジウム « Les droits de l'homme sont-ils toujours universels ? »，東京日仏学院・日仏会館共催，東京日仏学院および日仏会館，1998 年 12 月．発表．フランス語．
13. 「エスプリの変貌」，日仏会館講演会，日仏会館，1997 年 12 月．招待講演．

14. 「普遍性としてのクレオール」，シンポジウム「カリブの遠近法」，東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻，東京大学教養学部，1997 年 10 月 27 日．発表．
15. 国際シンポジウム「アーレントの思想を「政治化する」――90 年代私たちはアーレントをどのように読んできたか？」，アーレント研究会・立命館大学国際文化研究所プロジェクト・共生と多様 - 普遍性研究会共催，立命館大学国際平和ミュージアム，1996 年 12 月 1 日．討論．
16. 「内なる記号．メルロ＝ポンティ試論」，日本フランス語フランス文学会春季大会，日本フランス語フランス文学会，学習院大学，1987 年 6 月．

その他の活字にならない研究活動

1. 「駒場で考える〈シャルリ〉以後の世界」，東京大学生協駒場書籍部・青土社・白水社．駒場コミュニケーションプラザ，2016 年 5 月 16 日．討論．
2. 「ニュースにだまされるな．「ヨーロッパの金融危機」」，朝日ニュースター（BS），2011 年 12 月 3 日．討論．
3. 「ニュースの深層「若者は何を考えているか――フランス」」，朝日ニュースター，2006 年 5 月 1 日．メインキャスターとの対談．
4. 「人種問題と〈人権の祖国〉――フランス普遍主義と人権理念の課題」，国際カレッジ・テラコヤ「フランス理解講座」，横浜市国際交流協会主催，横浜シンポジア，2000 年 2 月．招待講演．
5. « Le Sujet au Japon. Du point de vue philosophique »，パリ社会科学高等学院「現代日本研究会」，パリ第 3 大学，1984 年 2 月．発表．フランス語．

以上